

ほんにかえるプロジェクト 会報

# かえるのうた

| 1

第 15 号 2019・1 月

ほんにかえるプロジェクト発行

編集責任者：汪 楠

2016 年 1 月創刊



画 W.M

## 代表の挨拶

猪の とき猛進 望まねど  
新たなる年 ころ新たに

代表 田中伸彦

明けましておめでとうございます。  
年号が変わると言われている2019年、  
皆様も新たな思いでお迎えになられた  
事と思います。

私たち「ほんにかえるプロジェクト」  
も皆様の温かいご支援のお陰で、昨年  
も何とか会の運営を維持する事が出来  
ました。

有り難うございました。心よりご協  
力に感謝申し上げます。

今年も様々な困難が待ち受けている  
事でしょうが、プロジェクトの活動が  
少しでも皆様の励みになるよう精進し  
ていく所存でございます。

これからも至らぬ点、ご不便をおか  
けする事があろうかと思いますが、変  
わらぬお付き合いをお願い致します。  
私たちのお届けする本が、皆様に日々  
の楽しみと和みをもたらす事を願っ  
ています。

## 副代表の挨拶

### ひさしぶりに一年の計

副代表 Gabrielaiko s. c. q.

今年こそはと決意を込めて、元旦に  
一年の目標を立てていたのは10代ま  
ででした。「毎日日記を書く」というの  
が多かった。「昨日にほぼ同じ」が頻出  
して「まばら坊主」になったよう。し  
かし、何事かを記していく習慣は身に  
ついたようです。

今年は何十年ぶりに1年の計を考え  
ました。亡くなられた一人の司祭の人  
物評を目にしたのがきっかけです。

師の特徴は「他人の欠点や落ち度を  
素直に見過ごし、何事もなかったか  
のようにやり過ごしながら、後片付けを  
する」。その方と私はほぼ同年齢。“ま  
いったなあー”知らないところで、こ  
のように生きていた方がいた！

私といえば、人様の欠点や落ち度を  
しっかり分析し「納得了解」のラベル  
を貼って、理解したつもりでいた。友  
達になるにはどちらだろう。とにかく、  
私に欠けていた要素「見過ごし、やり  
過ごしながら、後片付けをする」を1  
年の計にしました。

来ませ君

## いが栗落ちしみちよけて(良寛)

外部会員 佐久田ゆう子

私の庵への道には、いが栗が落ちて  
います。どうか足元に気をつけて、訪  
ねてきてくださいな、という句です。

いが栗は、踏むと非常に痛いですね。  
子どものころ、運動靴で踏み抜いた痛  
さを思い出しました。昔の草鞋(わら  
じ)をはいた足では、ひとたまりもな  
いでしょう。



良寛様は、とてもやさしい方でした。  
庵を訪ねてくれる友人に、いがぐりが  
道に落ちていますから、気をつけてき  
てくださいな、と前もって伝える優し  
さがおありだったのですね。

訪ねてきてくれたら、お二人で、い  
ろろで栗を焼いて食べたのでしょうか。

でも、私はもうひとつ思ったのです。  
いが栗をさけて訪れる人は、もしかす  
ると、忍ぶ恋の相手かもしれません。

良寛様は、和歌のほうが有名ですね。  
和歌では、たとえ空想でも、恋に見立  
てて読むことが習慣ですから。

あるいは、恋人ではなくても、なに  
か事情のある人かもしれません。

それで、良寛様の庵を訪ねてくるこ  
とに、差しさわりがあるのでしよう。

それは心無い世間の噂なのでしょうが。

それでもなお、どうか私を訪ねてき  
てくださいな、と呼びかけたい気持ち  
に打たれます。そういう人恋しさが、  
秋には似合います。恋ではなくても、  
こんな思いは、だれの心にも潜んでい  
るのではないのでしょうか。

私の中にもあります。あなた、会いに  
来てください。いがぐりの落ちた、足  
元に気をつけて、と。

次号 16 号より俳句と短歌のコーナ  
ーが始まります。「愛好会」です。

初めての方が投稿なさるなら以下のこ  
とに気を付けてください。

俳句には無季自由律と有季定型とがあ  
ります。しかし、新聞もテレビも有季  
定型を採っているので「かえる」も季  
語があって、5・7・5のリズムであ  
る、有季定型で投稿してください。

まず季語を知らねば俳句はできません。  
季語の本「俳句歳時記」が必要です。  
昔のでもいいですが季語に新しいもの  
も加わって来ていますからこれから買  
うなら最近の版が良いと思います。

①季語を重ねないこと。

5・7・5 音という 17 字の短い詩です  
から、ことばを大切に。うっかり季語を  
二つもいれたりしないように。季語だ  
と思っていなくて使ったりしますから、  
必ず歳時記で調べてください。

②切れ字(や・かな・けり)

や・・・かな、や・・・けり

やで切ったらかなとかけり で終わら  
ぬことです。 西原瑛子

# LETTERS

時下ますますご清祥の事と存じ上げます。早いものでもう4月となりいつの間にか桜の花も散り春光うららかな日よりとなりました。日頃は何かとお世話になっております事を心より感謝しております。

それで、私が服役して間もなく3年が経とうとしておりますが、私は日々懲役生活に邁進しながら何かと木工作業にも慣れ、同衆をはじめ良き工場担当にも出会えたお陰で、今日まで無事故で生活することが出来ております。そのお陰もあって3月28日には私の制限区分が第3種から第2種に上がることが出来て、そして、4月2日には優遇区分が第3類から第2類にも上がる事が出来ました。なので、第2類になれたお陰で毎月2回の嗜好品の自弁購入が出来るので、私はとても嬉しく思うばかりです。それと、制限区分が第2種になったと言う事は、もうすぐ私の仮釈放の為の本面接が入ると言う事なので、これでやっと先が見えて来ました。なので、今年の春は私にとつて特別な春となり、こんなにも嬉しい事はありません。

これも偏に「ほんにかえるプロジェクト」様のご支援とサポートの賜ものとお礼の申し上げようも御座居ません。そして、いつもお心にお掛け頂き誠に有難う御座います。

私が思うに早ければ5月下旬から6月にかけて晴れて社会復帰が出来ると思っております。ゴールデンウィーク前に出所が出来ないのが残念ですが、いずれ私が出所した折には自身の生活に落ち着きましたら、そちらへ何らかの形でご支援をさせて頂きたいと思存じます。

取り合えず私事のお知らせとお礼を申し上げます。それで話は変わりますが、1つ私事のお話をさせて頂きたいと思存じます。

私は今刑で5度目の刑務所生活となるのですが、私の32才から46才までの14年間で4回の刑務所で11年も堀の中におり、実質娑婆には約3年間しかおらず、私自身こんな人生に嫌気がさしどうしたら覚せい剤をやめられるのかと本気で考えたところ、ダルクの事が頭に浮かびました。

私はダルクと言う存在は知っていましたが、ダルクに行っただけで本当に覚せい剤をやめられるのかという思いが本音で、ダルクの事など真剣に考えた事は1度もありませんでした。刑務所で再犯率が1番高いのは覚せい剤事犯と言われる中で、たしかに同衆の半分くらいは薬物事犯ですが、けれど私の5度目の刑務所生活を見てもダルク入所経験者でまた薬物を活用して刑務所に戻って来た人はたまたまなのか私は2人しか見た事がなく、またそんな話もあり耳にした事がないのです。そう考えてみるとダルク入所経験者の

ほとんどが薬物をやめられて、今もなおやめ続けられているんだなと思います。刑務所批判をするわけではありませんが、たしかに刑務所に入れられただけでは薬物がやめられないのが厳しい現状です。私は薬物依存という「刑務所の檻より辛くて寂しい檻、決して1人では出る事のできない檻」に自ら入ってしまったので、だから私は1人で覚せい剤がやめられない事にやっと気が付き、そこでダルクの力を借りて今度こそは覚せい剤をやめたいと本気で思いました。なので、私は薬物依存症という病気を私の病と受け入れて、「病を友として、病と暮らしながら病に打ち勝つ」所存です。それで、私はダルクに入所する事を考えて、私の仮釈放の仮面接が入ってからダルクに手紙を出しやり取りをしながら色々と相談に乗ってもらい、私の刑の満期日を過ぎてからのダルク入所希望を決めさせて頂きました。なので、私はダルクに最後の望みを掛け希望を抱きました。

ここまでの決意になれたのもこの受刑生活を通して学んだ事、思い知らされた事が1番で、それと、「ほんにかえるプロジェクト」様のご支援とサポートのお陰で、私達受刑者の為に色々と相談に乗ってくれ力にもなってくれる事に感謝を覚えたからで、そしてその思いに答える為にも今度こそは薬を使わない新しい生活を手に入れなければいけないと心から思えたからです。

そして、決して1人では更生が出来

ない事にも気が付き、こんな私の為にも手を差し伸べてくれる人達が居る事にも気づかされたお陰なので、だから「ほんにかえるプロジェクト」様には本当に心から感謝しております。誠に有難う御座いました。以上となります。

誠にどうもすみません。以上にて長々と私の思いつくまま書き連ねましたが、私の意のあるところをお汲みとり頂ければ私は幸いに存じます。

最後となりますが、「ほんにかえるプロジェクト」様のご存在を私は心から感謝させて頂き、今日まで賜りましたご教訓とご指導を大切に、私は新たな決意を持ちまして今度こそは更生を誓いたいと思います。本当に今まで色々とご支援とサポートを有難う御座いました。

そして、「ほんにかえるプロジェクト」様から受けたご恩の程を私は生涯忘れずに肝に銘じ、ご芳情にそむかぬように努力して自身の社会復帰と改善更生に励む所存です。そして、私は陰ながら「ほんにかえるプロジェクト」様のこれからの益々のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げております。これからもどうぞ頑張ってくださいませ。

では、日に日に暖かくなりすっかり春めいて来ましたが、スタッフ御一同様、健康管理にだけは気を付けてどうぞご自愛くださいませ。それでは、乱筆乱文にて失礼を致します。

会員番号 A069

# LETTERS

自分は昼間塗装の仕事をし、朝早く起きて出掛け、県内ばかりでなく、時には出張で県外へ出向いたり、近郊では千葉の袖ヶ浦まで行ったりでそうなるとうちに帰る頃にはすっかり日も暮れて、帰れば帰ったで今度は家事もしなければならず、食事なんかも食費を節約するため、自炊で賄い、浮かせた分をバツイチの女性との交際費や、その連れ子の養育費に充てていました。

平日はお互い仕事がありますので会うのも週末が殆どで、日曜の休日も朝から連れ子の遊び相手で1日潰れてしまいますし、自分の時間なんか、あつてないようなものでした。それでもその連れ子がすごくなついてくれたので、仕事が苦しくても頑張れたし、そんな生活に喜びを感じる自分がありました。

けれど結局、その生活を失ってしまったのも自分のせいですし、バツイチの女性との間で、金銭面で折り合いがつかず、ケンカ別れのままの逮捕となり、今に至ります。

周りの人間が捕まる度に差入れだなんだと出費がかさみ、その影響が少なからずバツイチ女性との交際にまで、及んでしまったのだと今、振り返ってみてそう思います。

ことわざで二兎を追うもの一兎を得ずとある通り、2つのものを得ようと目論んでも最後には1つも得られない。自分の場合もそうかも知れません。周

りの人間との交際、援助も大事だったかも知れないけれど、自分の生活基準を超えてまで行う必要はなく、そこは維持した上で、余力があればその分でカバーすべき事だったと今ではそう思います。

そして今一番思うのは、塀の中に戻りそうな連中の所に身を置いてしまったのが、間違いだったかなと考えていますし、今現在、自分に出来る事は、前刑で知り合った人とは全て連絡を取らないと決意し実行しています。

汪さんの言う通り、同じ道を選ばない保証はどこにもなく、また塀の中で似たような出会い、誘いは必ずあると簡単に予測できます。それを断るのはとても勇気のいる事ですが、自分の残りの人生を考えた場合（この場合は更生する事ですが）、そうしなければ、再び犯罪に走り繰り返してしまうのは目に見えています。

今は、信用度なんかゼロ以下かも知れませんが、これから1つ1つ自己改善し、努力していきますので陰乍ら見て頂ければ幸いに存じます。

娑婆での規範意識を高める事も当然ですが、塀の中で遵守事項はありますし、汪さんの団体にも規約があります。それぞれ決め事を守れない様では、とてもじゃないけど娑婆での遵法精神なんて守りきれないと思うのですがどうでしょう。

これまで塀の中の生活では“猫かぶっていれば、いいや”“くらいの気持ちで務めていましたが、そうした考えをも根本的に改め直していく事が、“生き方を変える”事にもつながっていく

のかと漠然と考えています。

本を読んで自分を変える、本当の自分に帰る、というコンセプトで支援を行なっておられますが、本を読んで何をどう思い、感じるかが大事ではないでしょうか？ そして、“本当の自分”とはどういうものであるのか、この辺も模索しながら読書しようと意識付けています。

それと、無償本リストを見てリクエストして下さいとありましたが、当分の間、お金がないので、リクエストに対しての寄付が出来ませんし、そこまで甘えてしまってもいいのか自問自答しています。そう思い乍らも一応リクエストだけ記入し同封しました。

汪さんがこのプロジェクトを発起し、運営費、資金面で身ゼニを切って、立て替えてきたというのは、活動内容から容易に判断がつかますし、誌面を使ってわざわざ嘘の報告をしても、何の得にもならないでしょう。自分なんかからしたら、“サポートします”という言葉だけでも本当に有難い話です。

娑婆に居た自分にも手伝って欲しかったという言葉にも切実さが伝わってきますし、こうなる前にもっと連絡を密にしておけばよかったと後悔もしています。“後悔先に立たず”とはよく言ったものです。又、これからは後悔しない生き方を選びたいものです。といった処で本日はこの辺で失礼しますが、まだ暑い日が続きそうですので、御身体には呉々も御自愛下さい。

拝答

汪 楠様

会員番号 A184

## 編集担当より

現在東京拘置所に収監されている〇〇さんと事務局長の汪とは岐阜刑務所で知り合い、出所後も2回ほど連絡を取り合って、近況を話す関係でした。 | 6

〇〇さんが逮捕されたことも知らず、連絡が絶ったことを結婚でもして刑務所仲間との関係を自分の意志で切ったと思っていました。

前後しますが、汪が〇〇さんに送った手紙も掲載します。

〇〇さんへ

お手紙ありがとうございます。

更生する意欲があるとのことですが、更生意欲がない人はあんまりいないような気がする。俺もそうですが、更生したいけど、できなかったというパターンが多い。ではなぜできなかったかを考えた時、どう思いましたか？付き合う人が悪かった？俺らはもうおっさんです。大人です。大人として選択し、大人として責任を持たなければならない。そう、全部自分が選択し、蒔いた種です。

〇〇さんも刑務所から出てきて、いろいろ思うことがあっての再スタートでした。でも結果的には今は塀の中。説教をしたくないけど、言いたいことを先に言う。なぜ更生支援をしている俺のところに顔を出さず、あのグループに行っただ？今度出てきたら同じ道を選ばない保証はどこにある？塀の中でまた似たような出会いとか、誘いがあると思う。それを断れるのか？

塀の中にいる〇〇さんを助けるのは簡単なことと〇〇さんが思うかもしれない。でも俺にとって簡単なことではない。あなたたちが遊んでいるときに、俺は昼も夜も支援活動のために働いていた。俺だって遊びたい、あなたたちと同じように世間並みの付き合いもしたければ、何もせずにくらそとしたい日もある。でも頑張ってきた。いま就寝前に冷たいコンクリートの天井を見上げ、思うことがあるのも後悔するのも理解できる。でも繰り返してきてしまったのも俺たちです。言葉が悪いけど、塀の中にいるうちの俺たちは信じることができない存在です。

Mさんのことは俺も知っている。彼の弟も知っている。18年という刑は出所してきた人たちの中では一番長い刑を受けた人ではないかと思う。そいつの人生だからどうのこうの言うつもりはない。でもMさんが知り合いの女性が仕事を探していると連絡してきて、連れてきた女性は明らかに薬物中毒者で、全身あざだらけで骨折までしていた。明らかに暴力を受けていた。それは誰がやったのか〇〇さんもわかるでしょう。俺はそれしか見ていないけど、近くにいたあなたたちはもっと見てきたでしょう。それを止めなかった、やめさせることもできなかった。つまりあなたたちもある意味加害者だよ。それでもそんなクズ野郎を男と思うのか、どういう神経をしてんだよ。

全否定をしているようで申し訳ない。うれしかったのはバツイチの女性を抱

えたところ。助けたからって感謝されないのもこの世の中。こういう活動をやっている余計にそう思う。

捜査の違法性云々は全く興味が無い。この日本ではまかり通ってしまう捜査の手法です。自分がその被害に遭ったからって騒いでも仕方がない。他の人がそのような違法捜査にあっても助けようとしなかったでしょう。

今後罪を犯さないために何が必要かと法廷で聞かれ、その答えはよかったと思う。また考える時間があることだし、一緒に頑張ろう。

お金は貸さないではなく、おれもないのです。専属でこの活動をやっているから収入が全くない。食べ物もホームレスに配るフードバンクからもらってきた賞味期限が切れる寸前のもので飢えをしのいでいる。

更生とは何か。生き方を変えることです。本を読むことで自分を変える。本当の自分に帰る。そんな意味も含めて団体名を「ほんにかえるプロジェクト」としました。シャバにいた〇〇さんに手伝ってほしかった。更生支援活動に参加することで他人を助け、自分をもたえることができると俺は考え、活動してきた。でも多くの方は俺をおかしい人と見ていた。ゼニにもならないし、感謝もされないことをしていると。でも今のS.Tさんのように助けを求めてくる人がいるのです。それに少しでも応えるのは俺の使命。と考えている。○刑務所の人には 〇〇さんが捕まったことを言っていない。



言わないから安心してください。

ほんにかえるプロジェクトの会員としてサポートします。年会費は2000円です。とりあえず未納として処理します。ある時に納付してください。団体として3年間活動し、年間の固定経費は200万円。寄付などの収入は80万円で毎年100万円以上の赤字です。それを俺は個人で立て替えてきた。信じなくても結構です。事業として考えても実るまでの道のりは険しいものです。一攫千金はあり得ないご時世であることは一般論として理解できるでしょう。

書籍リストを送ります。Aで始まるリストは無償本のもので、会員には年間で10冊までは無料で送ります。10冊以上ほしい場合は1冊につき100円の送料を負担してもらっている。Bで始まるリストは運営費に対してのカンパを呼びかけるもので、1冊につき200円の寄付をお願いしている。

〇〇さんは当分お金がないなら、後払いで処理します。リストを見てリクエストしてください。用紙に20冊分を記入し、時機を見て送ります。

今日もたばこ代もなく、朝から活動している。このくそ暑い中、エアコンもない処で寝ている。身の丈に合った生活？俺にしてみればそれも贅沢ですよ。

では今日はこの辺で。気が向いたら手紙をください。

汪楠 7/15

## LETTERS

18  
今年6月末に関東にて早や梅雨明け、岐阜では7/4~7/8にかけて連日の大雨、西日本を含めた大災害をもたらせました。広島や岡山で川が氾濫、決壊した模様です。その大雨が終わったと思ったら今度は連日35℃を超える酷暑、7/18には岐阜一帯では40℃にもなり、狭い独居暮らしの身では毎日うだるような暑さにもたえ忍んでいます。本当に日本国中、世界的にも異常すぎて、人間ばかりじゃなく動植物も驚いています。暑い最中プロジェクトの皆様、いかがお過ごしでしょうか。先日、6月末発信の手紙にて素早い対応をしていただき誠に感謝しております。8月には盆休みが6連休あることから何とか盆休みまでには部屋に入る予定です。暑い部屋の中で読書と似顔絵が楽しめそうです。

とうとう熱中症で塀の中でも死亡が確認されました。その後、暑さ対策として色々改善されましたが、その時はもう暑さはおさまっていたので、いつもの事ながらの対応のおそさが見てとれました。狭い独居で風も通らず、

扇風機すらない、コンクリートのこの造り、一昔前と違い高温が多い日があるので、今回の事を教訓にすれば熱中症で亡くなる人も少なくなるのではと思う今日この頃です。岐阜の土地は暑くて寒いのが特徴で厳しい住環境です。そんな中で今年で10年を迎えます。ようやく半分の折り返し地点の気持ちです。正直、もう少しこのプロジェクトが早く始動してしてくれたら、ストレスも半減をし、有意義な受刑生活が送れていたと思います。

両親は早く亡き、妹も他に嫁ぎ、弟は私のお金を持ってどこに居るのかさえわからず、そんな訳で身内もおらず困っていて、この中でも理不尽な事に巻き込まれ現在に至っています。ですので書籍など少しでも格安で思っているのと独居で生活しているので余った時間が多いこと。私の方も何か役立てる事は出来ないか考えています。何かあれば言ってください。

7月に入り死刑が13人執行されました。色々な意見はあるものだろうと思いますが、今の法務大臣はハンを押すだけで、その前日などは親ぼく会でピースサインをするのがツイッターに投稿されたとまわってきた新聞で見まし

た。粛々と言っている割にこの有り様。

西日本の大雨と台風、災害はいつくるかもしれません。これからまだまだ暑さも厳しくなっていており、ボランティアスタッフの皆様も仕事もある中、見ず知らずの私達の為に色々やってくださり、これがもっとも更生としての意欲ともなります。正直、刑務所側の行っている事ではどうい無理ですし、今までの事を考えると信じる事は出来ません。今回は早く手続きをしてくれたお礼の手紙及び新しくボランティアになられた杉山さんへの手紙で短いですが申し訳ありません。

暑くて暑くてペンを取るのも汗がひたいから落ちてきます。もし今度、本のリストを送って下さる時は、要望として小説のリストですとありがたいです。独居ですので情報等が無いので本の種類もわかりません。私はスポーツが好きなので女子アスリートの特集の本は知りませんか。

杉山さんも遅くなりましたが誕生日を迎え、私は8/15の終戦記念日です。

皆様方も暮々も暑さに負けず夏を乗り越えてください。

では又、よろしくお願ひ致します。

# LETTERS

前略 失礼致します。

私は会員番号A136の〇〇と申します。いつもメッセージカード、案内パンフレット等、送っていただきありがとうございます。

今現在も年会費を払っていない私に気を使っていたいただき、誠に申し訳ない気持ちで一杯です。

私は現在 54 歳、関西出身で出たり入ったりと刑務所も 9 回目となり、今は家族、親族とも疎遠となり、天涯孤独の身となりました。若い頃は全然気になりませんでした。最近では年を取ったせいか、淋しさと後悔ばかりで、バカな自分を恨めしく思っています。

そんな淋しく、情けない刑ム所生活の中で、かえるプロジェクト様からのお便りの中にあつたお手紙やメッセージカードを拝見させて頂いた時、心があたたかくなり、本当にありがたいな～と思っています。

かえるプロジェクト様の活動について考え違いをしている多いことは私も気付きました。

私と同じ工場の人の中にも絶対に儲けていると言う人が居ます。

10 人程の工場で数人居るのですから、100 人以上の会員の中には、そん

な心ない人が居てもおかしくないです。

未だに年会費を払わず、送って頂いた「預り金利用明細」にマイナスを付けている私が、他の人の悪口を言える立場ではありませんネ (笑)。

でも私はプロジェクト様の活動には賛同致しますし、応援もしたい気持ちで一杯です。すぐにでも会費を送金したいのですが、情けない話、今現在、領置金が無く報奨金生活をしています。

すこしずつ報奨金も上り、使用金額も上ると思います。誠に申し訳ありませんが、毎月いくらかの切手を送らせて頂きます。預かっていたいただき、切手での年会費 2900 円以上にたまるまで待っていただけましたら助かります。

寸借詐欺まがいな事はしたくありません。社会で沢山の人の裏切ってきた私が刑ム所まで入って助けてくれる人を裏切ったら、もう人間を辞める方がいいと思っています。

かえるプロジェクトの皆様とはいい関係で生きて行きたいと思っています。

これからもこんな人間ですが、よろしく願い致します。

今回は少しですが切手を送らせて頂きます。

「預り金利用明細」でマイナスが出ていました。-52 円ではありますが、資金難で苦しんでいるプロジェクト様にご負担をかける訳にはいきません。

少数ではありますが、返信用に使っ

て頂けましたら幸いです。

長々と書きましたが、本日はこれで終わらせて頂きます。

朝夕めっきり寒くなりました。スタッフの皆様、御体には十分御自愛下さいませ。

PS

本当に少しで申し訳ありませんが

82 円切手 3 枚

100 円切手 2 枚

を同封します。

これからも送ります。手続きよろしく  
お願い致します。

ほんにかえるプロジェクトは現在約 130 名の受刑者の更生を支援しています。

本来なら受刑者にも 2000 円の年会費を負担していただくのですが、そのお金もない人が多く、払える人は 30 人ほどしかいません。

それでもサポートするのはこの人たちを社会から孤立させたくないからです。

私たちにできるのは彼らに寄り添い、書籍と手紙を贈ること。彼らに自分の存在を知っている人がこの世の中にいることを感じさせることができれば、自分の人生を考え直すきっかけになると信じているからです。

LETTERS

拝啓

緑したたる 5 月となり、皆さまにはますますご清栄のことと存じます。あつかましくも突然にお手紙を差し上げますが、どうかご容赦願います。

私は現在、宮城刑務所に収容されています。

「反省」と「後悔」。刑務所で生活している私には、いつも側にある言葉です。どちらも常に頭の中にあります。朝起きてから寝るまでのあいだ、繰り返す反省と後悔。

2 つの言葉は一見とてもよく似ていますが、よく考えると違いがあります。反省は前へ進むために後ろを振り返る「省みる」ことで、後悔は過去を思い出しては情けなさや惨めな思いを悔しがらだけの行為です。なので私は、後悔でなく、未来のある反省をしなくてははいけません。

ここでの生活は、辛く苦しい事ばかりですが、精神さえ堅固ならばどのような環境に置かれても挫けたり駄目になってしまうことは無いと信じて、前向きな気持ちで生活しています。

私は十代の頃から少年院への入院・出院を繰り返し、成人してからも事件を犯し現在に至ります。

これまでに更生する機会はたくさんありました。ただ自己本位な性格や、

目先のことしか考えない私は、周囲の期待や心配する気持ちの言葉を真摯に受け止めずに裏切り、迷惑を掛けていました。

もっと早く気付けていれば良かった…。私は今回、とても多くのものを失いました。失ってみて初めて、失ったものの大きさを痛感しています。

宮城刑務所での服役も十年以上が経ちますが、得たものも多くあります。今回の服役を最後にするため、更生への道を歩んで行きたいと強く願っています。

以前から【ほんにかえるプロジェクト】の更生を支援する活動を知っていました。私もかえるメイト(入会希望)をしたかったのですが、財政難により新規入会を受け入れず、既存会員にも退会を勧めている状態にあったということだったので連絡を控えていました。

しかし先日、第3部が作られたという事を知り私も会員になりたく連絡した次第です。第3部に入会したいのですが、よろしく願い致します。

### 「ほっこりかえる」 (文責・庄子)

12月13日の「ほっこりかえる」では「ぼくはへび」という絵本を読みました。

PJ 正会員西原瑛子さんの作品です。

いたどりの葉の陰にいた、しまへびの子が、お母さんと外の世界に出かけに行きます。そこは初めて見るほかの

生き物がいっぱい。空を飛べる小鳥や、ぴょんぴょん跳ねる人間の子どもが羨ましい。でも、川を泳いだり、へびいちごを食べたり、みんなで踊ったり、楽しいこともいっぱいでした。瑛子さんの描く絵が美しく、お話に深い奥行きを与えます。

みんなの感想は…、「ぼくはへびでよかった」という結末に、ほっとする。」  
「へびがこんなに種類があることにびっくり！たくさんへびが描いてある場面に、見入ってしまう。」「お母さんが、お父さんを誇りに思っていることが素晴らしい。子どもの成長のために必要。」

「瑛子さんの絵本を読んで、へびが嫌いでなくなった。」等々。  
へびの子の成長をたどり、「ぼくはへび”



と納得していく様子に安心します。

次回は2月14日(木) 13:30～  
「やまのかいしゃ」(スズキコージ作・片山健絵)を読む予定です。  
朝寝坊をして、あわてて会社へ向かうほげたさんに乗せた電車は、なんと山の中に到着…、奇想天外なお話。  
興味のある方のご参加をお待ちしております。

内部会員の方も、絵本を読みたい方は、ついでのときにお申込みください。創作童話も募集しています！

刑務所の問題を世間がどうとらえているのかを紹介するコーナーを始めた。第一回目は東京新聞の記事です。

2017/11/25 中日新聞

## 刑務所から見るニッポン

佐藤直子・論説委員が聞く

刑務所の内側を想像したことがありますか。映画や小説に出てくるような残忍な受刑者はむしろ少なく、そこで刑に服しているのは、貧困のために無銭飲食や万引などの軽微な犯罪を繰り返す私たちの「隣人」が大半です。高齢の受刑者が急増し、心身の障害で働けない者も多い。出所しても家も仕事もないような人たちの再犯をどのように防ぐのか。元法務省官僚の法学者、浜井浩一さん(57)と一緒に考えます。

◆「隣人」の更生 支援を 龍谷大法学部教授・浜井浩一さん

**佐藤** 出所しても社会になじめず十年以内に刑務所に戻っていく再犯率が二〇一五年は五割近くになりました。政府が再犯防止に本格的に取り組もうとしたきっかけは、心身にハンディがある人や介護が必要な高齢者が、刑務所にあふれている実態が明らかになったことです。

**浜井** 政策秘書の給与を詐取した罪で服役した山本讓司さんが〇三年に出版した「獄窓記」の衝撃が大きかったですね。触法障害者の世話を任された山本さんは、生活に困った人が小さな罪を重ねては刑務所と社会を行き来していることを訴えた。

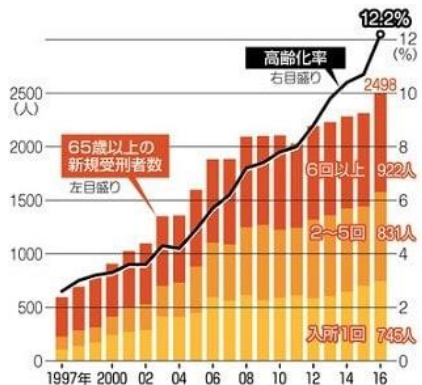
**佐藤** 浜井さんが研究者に転身した原点も、そんな刑務所での勤務経験

にあるそうですね。

**浜井** 犯罪白書を作っていた法務総合研究所から二〇〇〇年に横浜刑務所に異動し、受刑者の作業を割り振る責任者になりました。当時、刑務所はどこも過剰収容が続いて受刑者で満杯なのに、作業場は人手不足。認知症の人や体が不自由で介護が必要な人など、みんなどこかにハンディがあったからです。

変だと思いましたよ。地下鉄サリン事件の衝撃で「安全と水はただではなくなった」といわれるようになり、警察も法務省も学者も「治安が悪化したから刑務所は満杯」と信じていた。なのに目の前に治安を悪化させたと思える人がいない。

**佐藤** 昨年は相模原市の障害者施設で大量殺傷事件、最近では自殺志願者らを狙った連続殺人と目される事件が発生。大事件が起きると一気に体感治安が低下します。刑務所には「凶悪犯」のイメージが重なるのですが、違うということですか。



**浜井** 一九九〇年代後半から刑事司法全体に厳罰化が進んだのです。重大事件の被害者や遺族から厳罰を求め

る声が強まった影響でしょう。検察の起訴・求刑基準が上がり、厳罰化は軽い罪を繰り返す人にも影響した。刑務所が満杯だったのも厳罰化のためです。新規受刑者に占める高齢者の割合が増え始め＝グラフ参照＝刑務所で亡くなる高齢者が増えるのもこの時期からです。

**佐藤** 浜井さんが言う「刑罰の逆進性」を象徴した現象ですね。高齢者だけではない。東北地方で取材した方には知的障害がありました。親から養育放棄されて幼い時から寺のさい銭や食べ物を盗んでいた。障害者手帳もない。私が会った時は出所して求職中でしたが、また万引をして服役したと手紙が届いた。社会に居場所のない人は罪を重ねてより重い刑に服していくしかないのでしょうか。

**浜井** 刑事司法と福祉をつなぐ国の研究が始まったのは〇六年。受刑者の四人に一人が知能指数（IQ）七〇未満、三割の再犯者が六割の犯罪を起こしていることが分かり、再犯防止策が必要だといわれるようになりました。今は一律的な厳罰化傾向は緩み、検察も障害者や高齢者の万引などには起訴猶予を模索するようになってきた。司法関係者でも身内に障害者がある人は厳罰化に懐疑的です。

今、投票年齢の引き下げに伴い、少年法の適用も十八歳まで引き下げるとい議論が進んでいますが、少年犯罪の審判を刑事手続きへ移行させるのは、現実を無視した愚かな行為です。実は、日本の少年司法は世界的に見てもうまく機能していて、少年非行がそのまま成人の犯罪に移行する例は少ない。早

期のケアで非行の芽を摘むおせっかいな少年法が機能しているからです。それに比べて成人は罰するだけだから再犯率が高い。犯罪全体が減っているのに出所者の再犯率が五割とは異常です。福祉の網からこぼれがちな人に目を向けられないと。

**佐藤** 日本の刑務所は異質ですね。受刑者は刑務官の指示で動くだけで人間的な交流や関係を築く場になっていない。社会復帰を難しくしませんか。

**浜井** 日本は刑罰の場だから異質なのが当然なんです。イタリア・ミラノのボッラーテ刑務所の実践はユニークですよ。可能な限り刑務所を社会環境に近づけ、受刑者に自律的な生活を認める。百人以上の民間ボランティアが受刑者と一緒に社会的企業をつくり、配食サービスやコールセンター、地域に開いたレストランなどを運営する。受刑者の一部は外に通勤もする。

**佐藤** どうしてそんな思い切ったことができるのですか。

**浜井** イタリアの憲法は刑罰の目的は更生だと定めています。受刑者の労働も求人して面接し、働けば賃金が支払われる。

**佐藤** 社会のルールを刑務所の中にもつなげたのですね。日本の作業は懲らしめで出所時に渡される報奨金もわずかです。

**浜井** イタリアの刑務所も昔は日本のようでしたが、ボッラーテ刑務所は受刑者が市民と交わることで社会復帰を目指した。効果はこの刑務所を出た人の再犯率が平均の半分以下の18%まで激減したことに表れている。十年かけたこの改革はイタリアでも少

数派ですが、更生支援を考えるヒントになる。

**佐藤** イタリアでは七八年成立の「精神保健法（通称・バザーリア法）」で精神病院を廃絶し、地域で心病む人の回復に取り組むようになりました。ボッラーテ刑務所の実践も地続きに思えます。罪を犯した人へのまなざしを考えさせられます。

**浜井** バザーリア改革の成功体験は大きいでしょう。私も学生の際は犯罪者を「異質な人」と見ていた。でも出会った受刑者や非行少年は違った。罪は罪として、私だって生まれ育った境遇が違っていたら…。「刑務所に戻りたかった」と再犯する老人を大勢見ましたが、刑務所を彼らの最後の「居場所」にしてはいけない。イタリアでは判決後に別の裁判手続きがあり、裁判官と医師、社会福祉士が刑の執行方法を協議し、在宅でボランティアをさせたりします。

**佐藤** 日本も再犯防止推進法が作られました。

**浜井** 理念法（ある事柄の理念を定め、罰則などは規定していない法律）でも、国や自治体が再犯防止に責務を負うとした意義はある。バザーリア改革も長い時間をかけた。日本の意識転換もこれからでしょう。

**佐藤** 浜井さんは再犯防止のためには「刑罰よりも福祉」だと訴えてこられた。大切なのは日本が今後、どちらの方向に向かっていくのかだと思います。

**浜井** 刑事司法にかかわる人たちに「障害」への視点を持ってほしいのです。法務省の調査では、六十五歳以

上の受刑者のうち、認知症の人の割合が、同年代の国民全体の推計値よりも高い。これをどう考えるのか。

発達犯罪学の立場では、犯罪のピークは二十歳前後。年代が上がるにつれ犯罪はしなくなるものなのに、刑務所に高齢者が多数いること自体、原則に反する。日本社会や刑罰のどこかに問題があるということです。

罪を犯して服役した人もいつか社会に戻る。刑を終えて人知れず地域に帰る人に何ができるのか。法曹関係者は自らの役割を考え直し、専門でない人も「何かできないか」と思うだけでいい。わが事とする想像力が居場所をなくした人々の更生を支えるのではないのでしょうか。

<はまい・こういち> 1960年、愛知県生まれ。早稲田大で心理学を学び、法務省に入省。刑務所や保護観察所で勤務。国連犯罪司法研究所や法務総合研究所の研究官も務める。龍谷大では矯正・保護総合センター研究委員長も歴任。専門は刑事政策、犯罪学、統計学。著書は『罪を犯した人を排除しないイタリアの挑戦』『犯罪をどう防ぐか』など。

<再犯防止推進法> 議員立法として衆参両院の全会一致で昨年12月に成立した。罪を犯した者の排除や孤立をさせず、再び社会の一員となれるように支援して、犯罪が繰り返されず新たな被害者を生まない社会を目指す。その実現に責務を負う国と自治体は民間グループや地域と連携して仕事や住居の確保、医療福祉の支援を行う。法務省は計画を本年中にまとめる予定だ。



## PJの利用方法

### 受刑者の会員種別

第1部 設立初期に入会された会員。財政難により、廃止する方針です。

第2部 無償本の提供を年に10冊まで送料も無料で受けられる。年会費を免除している内部会員についてはネット検索とアマゾン購入代行を制限していますので、今後は年会費免除者を第2部に移行します。

第3部 年に3回無償本の提供を受けられ、ネット検索や購入代行などのフルサポートを受けられる。登録料はなし。年会費は2000円。なお2018年9月1日にゆうメールの運賃値上げがあり、無償本提供については年間で10冊までと変更しました。

### サポート内容

#### **無償本提供事業**

全内部会員を対象に書籍在庫リストを配布し、リクエストのあった書籍を年間で10冊まで無償で提供します。10冊目以降は送料を負担していただきます。送料の目安として文庫本は1冊につき100円、単行本などは1冊200円になります。重い辞書類は実費となります。発送の際、書籍の厚みと重さにより冊数が変動します。

なお、書籍在庫リストは更新を心がけていますが、郵送のためリアルタイムの在庫が反映されるわけではありません。リクエストする際は所定用紙か便箋に希望する書籍を多めに記載し、希望する冊数も記入してください。事務局は在庫があるものから送ります。

配布された書籍リストを必ずお手元に保管してください。在庫切れ情報は

このかえるのうたにて毎号掲載し、各自が手元の書籍リストから在庫切れとなった書籍を消していく方式をとる。

#### **ネット検索**

受刑生活を有意義に送っていただくために、帰住地や雇用先の調整、勉学目的のネット検索を代行しています。

所定用紙もしくは便箋に検索ワードを書き、申し込んでください。検索結果1枚につき100円の寄付をお願いします。

#### **SNS検索**

音信不通の家族や知人を探してほしいという依頼が大変多い。Facebookで検索する場合は1件1000円で、**印刷結果は1枚につき100円。検索結果や写真の送料は重さに応じて変動。**

SNS検索だけ割高に設定したのはダメもとで検索を依頼する方が多く、ヒットしなくても長時間のパソコン作業を強いられるからです。ご理解ください。

#### **中古書籍の値段検索**

アマゾンサイトを利用して、中古書籍情報を調べ、受刑者の読書生活を支援しています。所定用紙もしくは便箋に書籍のタイトル・著者・出版社を記入し、事務局まで申し込んでください。事務局でアマゾンの最安値と送料を調べ、返送する形で対応しています。対応可能冊数は月に20冊までとします。検索結果は1枚100円。

#### **中古書籍の購入代行**

内部会員からお金や切手を預かり、Amazonから中古書籍の購入も代行しています。依頼の際は所定用紙もしくは便箋に書籍のタイトル・著者・出版社・**送料込みの上限額**を記入し、事務局まで申し込んでください。

## かえるのうた

事務局では本代と送料の合計が最安値の出品を見つけ、会員が指定した上限額を超えない場合のみ注文します。

運営費捻出のため、本代とアマゾン送料の合計金額の30%相当の寄付をお願いしています。最も多い1円の中古書籍を例にしますと、(本代1円+アマゾン送料257円)×30%≒78円の寄付をお願いします。

#### 利用時の注意事項

**その1** アマゾンの送料は1冊257円と長年固定されていましたが、出品業者ごとに自由に設定できるようになりました。PJでは送料の自由化に伴い、購入代行時の上限額の指定は書籍代金と送料の合計金額に変更します。

**その2** 注文履歴をアマゾンからダウンロードし、1枚50円で内部会員に発行しています。必ず手元で保存してください。

**その3** 注文商品の未着についての苦情が増えています。

注文商品の未着について考えられるケースは以下である。

1. 注文したが、業者の在庫切れによりキャンセルされた。
2. 刑務所が恣意的に「出所時交付」と処理した。
3. 注文し、業者も配達したが、刑務所側が注文した人が不明として受け取り拒否し、商品が出品業者に返送された。このケースが一番ややこしく、宅配業者は刑務所から受け取り拒否されたという情報を荷主に伝える方法はないので、荷主であるアマゾン出品業者は返金もせず、再配達もしないことが多い。稀に配達したから送料だけを取り、本代である数円だけを返金する業

者もいます。年間でこのような返金は30円から50円程度ですが、PJの口座には送金された業者の社名しか記録されないため、注文した内部会員を得する情報がなく、本人に返金することもできません。

4. 以上は直接配送の場合です。受け取り拒否する刑務所の会員は転送を依頼することがあります。PJの事務局に商品が配達され、注文した会員に転送する方式ですが、事務局でほかの会員に送ってしまった場合や、紛失するケースがあります。

5. 注文した商品を内部会員が受け取ったにも関わらず、未着として返金を求めるケースもあり、同じ刑務所にいる良心的な会員から通報を受け取ることがある。

6. 過去に刑務官が郵送物を処理するのが面倒で、捨ててしまった事件もあり、郵便局や民間の配達業者でもこの類の事件が報道されたことがあります。

以上の事情から受刑者が入会を申し込んできた際、ノークレームノーリターンを承諾し、署名したものだけ入会を認めてきました。クレームを申し出た会員に対して購入代行の利用を停止させますと入会書類にも明記していますので、ノークレームノーリターンを徹底する方針です。

**その4** 転送制度を廃止する。アマゾンで注文する際は、お届け先欄の1行目に刑務所の住所を入力、本来建物名や会社名を入力する欄に「春江町5-15-31 汪楠注文」と入力し、お名前欄に受刑者名の後ろに「本人依頼」と入力して注文します。これにより刑務所が求める注文者の住所名前の記載あり

という条件をクリアし、受け取り拒否を回避しています。

**その5** 雑誌に付録されたDVDは刑務所では視聴できないことと凶器になりうることから受け取りを拒否されるケースが多い。付録を外した商品の購入を依頼されても対応できません。

**その6** 通販サイトはアマゾンのみ対応します。

雑誌年間購読は対応できません。

**その7** マングの全巻セット買いは対応できません。

### 緊急のお知らせ

9月1日からゆうメールの基本運賃が改定され、重さ1キロ以上と厚み3センチ以上のものはゆうメールとして取り扱いを廃止する。これにより、2キロの荷物の場合、今までは279円でしたが、1020円に値上げされた。

この運賃改定の影響はとて大きく、無償本提供事業そのものの存続にかかわる深刻な問題です。内部会員の入会時に年間で3回無償で書籍を提供すると約束しています。**今後は年間で10冊まで送料無料を提供する。**

無償本リストを必ず手元で保管してください。在庫切れとなったものについては、このかえるのうたの紙面上でお知らせしていきますので、各自が手元のリストから削除してください。

なお、リストに誤って旧来の管理コード(アルファベットで始まるもの)が印刷されました。リクエストの際は、**全部数字である新コードで申し込んでください。**申し込みは所定用紙のほか、便せんでも受け付けます。

無償本の在庫切れは別紙を参考。

### 【預り金利用明細】について

PJでは内部会員から金券を預かり、利用の都度、【預り金利用明細】を発行しています。

【預り金利用明細】にある【預入】は今までPJに送付された現金と換金後の切手分の累計額です。【支出】は使った分の累計です。【残高】は現在の最終残高です。

【会員番号B】とあるが、Bは別シートの会員番号欄の列をさす記号であり、関係ありません。

【誕生日】が1900/1/0と表示されていることについて大変多くの会員から問い合わせがありました。これは誕生日を申告していない会員だけが表示されるもので、システム上、空欄にできず、入力しないと1900年生まれと表示されます。

【会費納付日】が不明と表示されているのは本年度の年会費を納付していないことを意味する。

PJは特に個人情報を集めるつもりはありません。ただ無期かどうか、メイト名は何か、差入制限は何冊か、転送必要か、無償本の送料を年に何回負担できるかを知りたい。これは管理上に必要なものです。入所日はいつからシャバにいないかがわかれば、いろいろを説明する上では便利なんです。3年前までシャバにいた人と、40年もシャバにいない人とでは、こちらもいろいろなシステムを説明する上では手紙に書く内容も違ってきます。ご理解ください。アマゾンには川ではないと知っているけど、ほかはよくわかりませんという手紙も来ますからね。

## 編集後記

事務局長の汪です。対応が遅れています。いつものことですが、今の時期は年末年始で飲み会の誘いがとても多い。はい、原因は私が飲んだくれていたからです。心からお詫びいたします。

多くの会員から年賀状をいただきました。スタッフのグループラインにアップして喜びを分かち合いました。ありがとうございます。

今年はPJにとっても飛躍する年であるように内外の会員とスタッフが一丸となって頑張る所存です。どうかご協力をお願い申し上げます。

今年も目標はやはり迅速な対応ができるようにしたい。そのためにはPJをNPO法人にし、ボランティアスタッフをあっせんしてくれる機関に登録できるようにしたい。と同時に在宅スタッフに作業を振り分けられるようにシステムを構築しなす。

強力な助っ人が二人も入りました。購入代行とパソコン修理を担当していただいています。ホームページも再開できるかもしれません。

ほかのスタッフもがんばっています。1月の講演会も無事に終わり、40名以上の方が参加してくださった。心から感謝いたします。

反省すべき点も多く、特に事務局長の私が至らない点が多い。結局タバコもやめられなかったし、ダメダメ人間ですが、今年もよろしくお付き合いください。 汪楠

ほんにかえるプロジェクトは会員を募集しています。

正会員の年会費は3000円。

寄付もお待ちしています。

振込先

ゆうちょ銀行 10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行 018 支店

(普) 8623921

口座名義は

ほんにかえるプロジェクト

ほんにかえるプロジェクトはボランティアスタッフを募集しています。在宅のままでもできるパソコン入力と文通スタッフが特に不足しています。

自宅の住所を公開する必要もありません。プライバシー保護に細心の注意を払っております。

PJの活動資金の捻出の一環として小冊子も販売するようになりました。第1冊目は汪が書いた「私の生い立ち」(A5サイズ 88頁)、500円で販売し、その収益は全額支援活動に充てます。好評につき、手作業で増刷中です。

2冊目の「獄中書簡集」も完成しました。汪が受刑中に書いた手紙をまとめたものです。

発行所

〒134-0003 東京都江戸川区

春江町 5-15-31

ほんにかえるプロジェクト事務局

電話 080-8811-5465